

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170500161
法人名	有限会社 ティーム
事業所名	グループホーム うらら
所在地	伊万里市黒川町塩屋121番地10 (電話) 0955-6627-1066

評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝1丁目1224番2		
訪問調査日	平成 20年3月12日	評価確定日	平成 20年4月25日

【情報提供票より】(平成20年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 6 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7人	常勤	6人, 非常勤 1人, 常勤換算 6.25

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	2階建て	1階	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000~36,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	750 円	

(4) 利用者の概要(平成20年2月1日現在)

利用者人数	9名	男性	4名	女性	5名
要介護1	4名	要介護2	2名		
要介護3	1名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	64歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	世戸眼科 隅田病院 唐津第一病院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

伊万里黒川地区の住宅地の一角にあり、近くに医療機関、学校、公民館、スーパーなどがある。静かな住宅地の中、そして改築型のグループホームということもあり、不自然さはまったくなく周りにとけこんでいる。その中で、入居者の一人ひとりが、ゆっくりとした時間の中で共同生活をおくられている。愛や信頼といった人格的な交わりを重要視されながら、介護サービスを提供されている。また、いきいきと過ごすことができるように、食器洗いや洗濯物干しなど、一つひとつの作業を分析表を用いて、個々の能力に応じた最もふさわしい作業を見出し、入居者が自ら取り組まれるように支援されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前年度、外部評価の結果を受け、今後どのように対応していくか検討を行い、改善に取り組まれている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の外部調査を受け入れるにあたり、前回評価を見直すのはもちろんのこと、自らのグループホームを見直す機会とされている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>年1回、同グループが経営するグループホームと合同実施する運営推進会議には、家族はもとより、職員、ご近所の方、民生委員、市役所の福祉関係職員、市議会議員などが参加されている。そのような中で地域の人々に農作物をもらったり、収穫作業などに参加できる機会を与えてもらう機会にもなっている。今後、定期的に運営推進会議を実施し、さらにサービスの質の向上に活用される事が望まれる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>意見箱の設置や個々の意見を聞き、今後活かすように試みられている。家族に対しては、面会時や入居者の病状について変化があったときなどに報告されているが、日頃から便りなどでの職員の退職や異動などについても報告されることが望まれる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の新年会や自治会、行事等には参加されているが、入居者のADL低下に伴い参加できる機会が減ってきている。塩屋という地域においてグループホームの認識を持ってもらうためにも、さらにこれからも地域行事には積極的に参加されることが望まれる。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	元々は、教会の方々から家族と一体となって高齢者介護という福祉活動を始め、地域貢献として地域の方々にも介護を提供するようになった。「友情」を一つテーマに職員への意識伝達を行われている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各棟においてミーティングの際に、共同体としての仲間意識、横の連携、お互いのいたわり、一つの心をもって一つの目標に向かうことを確認するようにされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の新年会や自治会、行事等には参加されているが、利用者のADL低下に伴い参加できる機会が減ってきている。	○	入居者が参加可能な地域行事の情報収集を行い、さらに積極的に参加されることが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は評価の意義を十分理解し、全員で評価項目を検討し、工夫改善に取り組まれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	同グループが経営するグループホームと合同実施する運営推進会議には、家族、職員、ご近所の方、民生委員、市役所担当課職員、市議会議員などが参加されている。会議は地域との交流を持つ機会となっているが、年に1回の開催となっている。	○	今後、定期的に運営推進会議を開催し、さらにサービスの質の向上に取り組まることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当課とは面談や話し合う機会を持ち、ホームの運営についての助言を得るなどされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の面会時や電話連絡等により、定期的な受診結果や金銭管理について報告をされている。日常的な内容については、2ヶ月に1回発行している便りにより報告されている。	○	職員の異動、退職についても家族に対してお知らせされる事が望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や利用者個人々の意見を聞き、ホームの運営に反映させ、サービスの質の向上に活かされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	グループ内での異動や退職者などがある際は、利用者にてできるだけ配慮され説明などされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修会の開催や、外部研修の案内を職員全員に回覧し希望を取るなど、自発的な研修意欲の向上を図られている。又、研修報告会を開催し、周知を図られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域にある特別養護老人ホームでの研修会へ参加し、交流する機会を持つようにされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居までの間に時間の余裕がある方については、1週間ほど試験的入居期間を設けて、本人が納得して入居できるように配慮されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	高齢者の自立支援を目指し、職員はあくまでもサポートする側との認識を持って日頃より対応されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや意向に関しては、職員が日常生活の中で把握するようにされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、本人・家族共に入所時、家族面会時などに意向を聞き取り、担当者会議を開催し意見交換をしながら作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な3ヵ月毎の見直しはもちろん、状態の変化があった際にも介護計画の見直しを行ない、新たな介護計画を作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の要望に応じて対応されている。例えば、通院や、必要な物の購入、個々の外出希望等に対応されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に応じて病院受診をされている。緊急時の際には、近くの協力医療機関で適切な医療が受けられるよう支援されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在までに看取りを経験されている。家族に対しては、早い段階から話し合い、支援するようにされている。また、かかりつけ医とも対応を協議し、方針を共有されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの確保を徹底されている。特に声かけについては、より気を使われているのがうかがえ、本人が誇りを失わないように対応をされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝起きる時間、入浴の促しなどホーム側の時間を優先するのではなく、本人一人ひとりの時間を重視し対応されている。納得するまでに時間がかかる方については、あらかじめ時間に余裕をもって対応するようにされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や配膳など、入居者と職員が共に行ない、会話を楽しみながら食事をされている。又、片付けや食器洗いなども入居者が可能な範囲で取り組まれている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回(火・木・土)の入浴日を設けているが、希望があればそれに限らず入浴できる。朝風呂を楽しまれる方もあり、希望に応じて入浴できるように支援されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	作業分析表などを活用し、入居者一人ひとりのできる内容を把握し、日常生活に活かされている。また、入居者が役割を得ることにより、安心感をもつ結果となっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの公園に散歩に出かけたり、行きつけの理美容室や郵便局にはがきを出しに行ったりと、日常生活の中で外出できるように支援されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は施錠されておらず、自宅と同様に近所への散歩など自由に外出できる体制をとられている。また、玄関ドアの開放時にはサイン音で察知し、外出の見守りができるようにされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練や通報訓練をされている。近所のアパート住民に対しても、緊急時には協力が得られるように理解を求め、働きかけられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の入居者の健康状態に応じて水分や食事摂取量のチェックがされている。必要な場合には、健康食品などを使い健康維持に努められている。糖尿病など疾患がある方に対しては、かかりつけ医に相談し、食生活指導など受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には季節に合わせて花を生けたり、習字や絵を貼るなど生活感、季節感を出されている。リビング、縁側にソファが置かれ、居心地よく過ごせるスペースを確保されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的にベッド以外のものに関しては、使い慣れたなじみのものを持参してもらうようにされている。家族の写真なども持ち込まれ、居心地よく過ごせるように支援されている。		